



# シニアスカウティング ⑤ を考える

## プログラムの展開と進歩制度の活用

稲葉睦美

/////////  
**共通ニーズのひとつのパターン**

ゴールデンアックス・トレーニング・コースに参加したシニアスカウトたちがつくる年間プログラムを見ると、過去5か年にその訓練隊を編成すること16個隊、その中で彼らの共通のニーズによるひとつのパターンができあがっていることに気がつく。

もちろん、その内容についてはハイキングコースのひとつひとつに至るまで、すべてが変わっているのですが、しかしスカウトたちが感じたこと、ひとつのテーマをやり抜いたという満足感はそのすべてににじみでている。

/////////  
**正規の隊として扱っていないが**

しかしながら、これらのシニア集合訓練、G

・A・Tは決して正規の隊としては扱っていない。従って、その方法がいかなるものにせよ、またそのプログラムがたといスカウトの進歩課程の種目にもとづくものであるにせよ、コースとしては、決して進歩種目のチェック、また技能章、進歩章の授与などは一切行わない。

それはあくまで原隊の隊長の仕事であり、スカウト個々の進歩、向上はそのスカウトの個性と環境をよく知る原隊の隊長、そのたゆまぬ普段の指導のもとにおいて初めて評価されるものであるからである。

/////////  
**隼・富士に推薦する例は少くない**

ただし、コースリーダー、担当コミッショナーの名により、原隊のスカウト関係者ならびにスカウトの家庭、さらにその学校に至るまで、スカウ

トたちの予定などを随次連絡し、できる限り原隊の指導者にも何らかの形でそのトレーニングに参加してもらい、そして実行した内容についても文書をもって連絡した。

原隊の隊長がそれを認め、あるいはあらためて個々のスカウトのレポートまたは報告書を見て、さらに原隊での行動を観察し、コース修了3か月後、あるいは半年後、隼・富士スカウトに推薦してきた例は数多い。

### 津軽遠征直後に隼スカウト19人

たとえば、湘北地区からは、51年度において、津軽遠征旅行（隼スカウト挑戦キャンプと2泊3日の移動キャンプを加えたもの）を終えた直後の9月から翌年3月までの間に、実に19名の隼スカウトを出した。

彼らのスカウト技能は完全にその審査基準を抜きさるものであったが、それよりも高校生としてのものの考え方、とらえ方、そして見事なリーダーシップは、このような集合訓練において特に著名なものであり、それは原隊のリーダーを含む各団から集まっているリーダースタッフにより、その行動を通しての評価をされているのであるからその観察基準は当然高くなってくるものである。

### 相互研さんこそ集合訓練の目的

そして、この相互研さんの機会を与えてやることこそが、シニア集合訓練の目的と考える。私たちはそれを他流試合のための武者修業の旅と話している。少年菊スカウトが何人出てきてもシニア隊のレベルではまるっきり歯が立たない。

スカウト技能ひとつでも中学と高校のスポーツレベルほども違うものをシニアスカウトたちはもっている。

オーバーナイトハイクで60%のそれも、海拔2,000mに近い丹沢山塊を一気に抜き、2泊3日で伊豆下田から箱根湯本まで120%を走破してしまう力強さは『挑戦』ということばどおりであり、ものごとすべて、やってみなければわからない。やらない前に、できないとはいわない。という男らしい隊カラーになって現われてくるように思う

### GATは特別なグループでない

そして、常に思うことは、G・A・Tコースのスカウトだけが、特に選りすぐられた優秀なスカウトばかりが集まっている特別なグループではないということである。

その目的意識をしっかりと考えさせ、誇りと自覚とをもたせれば、全国どこの県連、どこの団のスカウトであっても全く同じであるといえる。

それは、私が数度におよぶ日本派遣団または、県連派遣団のリーダーとして海外派遣に参加した経験からもそれがいえる。

このような機会もまた考えようによっては、シニア集合訓練のひとつの形ともいえるように思う。それをただの行事としてとらえるか、または進歩のためのプロセスとして考えさせるかは、ひとつに隊リーダーの指導いかんにかかっている。

### ニード表と年間プロの1例

すでに「シニアスカウト進歩のマニュアル」の末尾にいくつかの隼スカウト個人プロジェクト例を紹介したので、ここではシニアたちが考えたニード表と、それを個人の進級プログラムに組み入れた1例をあげておく。(20, 21ページ参照)

この年間プロを1日も休まず、パーフェクトに参加したら完全に2年以内で富士スカウトになってしまうであろうが、進歩制度はあくまで、個人のためのものである。スカウトたちが自分で進歩計画を立て、高2までに富士に達するもの、また高3までに隼をとり、大学1年(18歳)で富士をねらうというように指導してもよいと思う。



班制度はシニア隊においてボーイのそれ以上に強く、班長の権限も高校の上級生としての必然的なものから、ボーイ隊よりはるかに強いものであるが、それと共にプロジェクトチームの活躍、委員会制度の活用は大いに生かされるべきものであると考える。(神奈川連盟副コミ、医博)

## シニアースカウトの班別ニード表

う さ ぎ 班	バ ロ ッ ト 班	バ ッ フ ァ ロ ー 班	た め き 班	き じ 班	パ イ オ ニ ア 班
新 人 歓 迎	新 入 隊 員 歓 迎		新 入 隊 員 歓 迎	歓 迎 パ ー テ ィ	入 隊 式
レ イ ン ジ ャ ー					レ イ ン ジ ャ ー
ク ッ ク ハ イ ク			料 理 研 究	そ ば 食 い 大 会	
水 泳			水 泳 教 室	ス キ ン ダ イ ビ ン グ	
ホ ー ト					
カ ッ タ ー					ヨ ッ ト
離 島 キ ャ ンプ		無 人 島 で Roving to Success 研究		リ ン ツ ー	ベ ン チ ャ ンプ
海 外 遠 征		遠 征 (無 人 島 探 検)	遠 征		
フ ィ ッ シ ン グ				川 下 り	
サ イ ク リ ン グ		サ イ ク リ ン グ		サ イ ク リ ン グ	サ イ ク リ ン グ
オ ー リ エ ン グ		ス キ ー O L	オ ー リ エ ン グ	オ ー リ エ ン グ	
50 キ ロ ハ イ ク		60 キ ロ ハ イ ク	マ ラ ソ ン		
オ ー バ ー ナ イ ト	オ ー バ ー ナ イ ト	オ ー バ ー ナ イ ト	オ ー バ ー ナ イ ト	オ ー バ ー ナ イ ト	オ ー バ ー ナ イ ト
天 体 観 測		天 文 観 測			星 の 観 察
G B 訓 練	技 能 訓 練	技 能 章 研 究 会	技 能 講 習 会	年 長 通 訳 章 会	技 能 章 獲 得 習
	登 山	ス ケ ー ト	ス ケ ー ト	ス ケ ー ト	ス ケ ー ト
	ス キ ー	ス キ ー	ス キ ー		
	隊 キ ャ ンプ	訓 練 キ ャ ンプ		移 動 キ ャ ンプ	團 定 キ ャ ンプ
ベ ー ス ボ ー ル	団 対 抗 体 育 祭		ソ フ ト ・ バ ケ ッ ト	球 技 大 会	運 動 会 ・ 球 技 大 会
音 楽 鑑 賞		音 楽	音 楽 会		
ク リ ス マ ス	ク リ ス マ ス	ク リ ス マ ス	ク リ ス マ ス	ク リ ス マ ス	ク リ ス マ ス
忘 年 会			忘 年 会	家 族 パ ー テ ィ	忘 年 会
新 年 会	新 年 会		新 年 会	新 年 会	新 年 会
B - P 祭	B - P 祭	B - P 祭	B - P 祭		B - P 祭
	隊 バ ザ ー		バ ザ ー		バ ザ ー
	映 画 鑑 賞			映 画 鑑 賞	映 画 鑑 賞
	緑 化 運 動 奉 仕		清 掃 奉 仕	神 社 か が り 火 奉 仕	奉 仕
	共 同 募 金	共 同 募 金		共 同 募 金	
	歳 末 助 け 合 い 運 動			歳 末 助 け 合 い 運 動	
	反 省 会				反 省 会
	自 衛 隊 体 験 入 隊				ホ ー イ ス カ ウ ト 運 動 に つ い て 国 の 情 勢 に つ い て
		演 劇 絵 画 彫 刻		ワ ッ ペ ン 製 作	が ま ん 大 会
		餅 つ き 大 会	た こ あ げ	た こ あ げ	た こ あ げ 大 会
				聖 書 研 究	聖 書 研 究

# シニアスカウトの年間プログラム案

—神奈川連盟ゴールデン・アクセス・トレーニング作成—

	プログラムテーマ	プログラムの主な内容
1 月 3 月	後につづくもののために (奉 仕)	ボーイ隊に対する指導 (シルバーアクセストレーニング)。 特修章指導, 結索, キャンクラフトの研究展示。
	創始者の足跡を追って (精究教理)	初歩のリーダーシップの養成, グリーン・シニアのプロジェクト チェック。
	新しい友をむかえて (団 結)	「スカウティング・フォア・ボーイズ」をよく読む。 4月以降の活動準備, 各種委員会の構成と活動に対する研究。
4 月 6 月	シニアアドベンチャーキャンプ (進 歩)	シニアアドベンチャーキャンプはG. A. Tコースとしては山中か 那須野営場において実施, (本誌7月号参照)。
	こんにちは青春 (教 養)	野営法, 炊事章, バイオニアリング等が主体。 夜はリープナイト (夜話) か社交活動。
	挑 戦 (試練と冒険)	5月のテーマは高校生の男女交際についての討論, 性教育スライド など必要により専門家の助言。 挑戦は50キロオーバーナイト, いかだの川下り等の冒険。
7 月 9 月	海にきたえよ (進 歩)	海洋訓練はカッター, 信号, ヨット, カヌー, 水泳等, 主として専 門家に依頼。
	ルックワイド (遠征旅行)	ルックワイドは東北, 南紀, 四国など遠い土地による生活体験, 県 連紹介状により地方のスカウターに連絡, 個人にも目的とコースを 書いた紹介状を持たせる。プロジェクトチームをつくる。
	パスファインダー (精究教理)	9月は記録を整理し, 新しい年間プロ作成。 グリーン・シニアスカウトに個人プロジェクトテーマを出す。
10 月 12 月	世界の中の日本 (教 養)	10月, 11月は学校行事が多く, シニアスカウトは集りにくい。夜 間のミーティング, フィルムフォーラム, スカウトフォーラムなど を多くもつようしむける。
	スカウティングと宗教 (教 養)	海外へ出ている人 (学識者) を招き, また海外派遣のリーダーを招 き, 外国と日本との民族性の違いなどについての話をきく。
	単, 富士, 個人プロジェクト完成 (進 歩)	全隊集会のもてない代り個人プロジェクトは大いに進める。

- (1) G.A.Tコースはこのうち4月～8月までのテーマをとったものである。この間はダイナミックな動きが多く, スカウト数も1隊30名ぐらいが動き易いからである。
- (2) テーマの移動により横浜中央地区は9月～3月をもって好成績をあげている。しかし, 全体的な内容からは, あまり変わらない。

# 富士スカウト挑戦キャンプ報告書

— 第11回オーストラリアジャンボリー —

ビーバー班 倉田武明

## このジャンボリーに参加した理由

昭和51年10月、第11回オーストラリア・ジャンボリー日本派遣団員の募集があった。

私は3月に県連派遣団の1員としてフィリピンに派遣され、海外のスカウトと交歓した経験を持っている。スカウトとして、外国に行くことが、どんなに大きな意義のあることかを経験していたので、できれば、もう一度フィリピンへ行きたいと思っていた。

たまたま51年12月から52年1月にかけて、フィリピンでナショナルジャンボリーが開かれると聞いたので、今度は日本派遣団に加わって参加したいと思ったが、急に1年延期になったため、同じ時期に募集していたオーストラリアに応募したのである。

## 富士スカウト挑戦キャンプとする

運よく、県連・日連それぞれの選考にパスした。内定の通知が届いてからは、日本のスカウトとして、名誉を守り、しっかりがん張ろうという意欲が湧いてきた。

12月上旬、日本連盟から、私の所属する神奈川県連湘北地区コミッショナーを通じて、日本派遣団上級班長に任命することを知らされた。

私は驚いたが、周囲の人々や友人、コミッショナーから励まされ、これを富士スカウト挑戦キャンプとして受け止め、私の観光やプロジェクトは第2の課題として、上級班長としての任務を立派にまっとうすることに専念しようと誓った。

なぜならば、今までに私の受けたトレーニング(神奈川県連ゴールデンアックス第3期・第4期)を通じ、富士スカウトは、単に技能ができるということだけではなく、何よりも、そのリーダーシップが高く評価されるということを知っていたからである。

幸い、私は尊敬すべき優れた富士スカウトの上

級班長を持つ訓練隊に所属していた。(ゴールデンアックスにおける大和2団の池田、上之園上級班長であり、さらに私の所属する座間1団の小田上級班長である。)私は、その人たちのよい点を考え、また私なりの上級班長像というものを考えていた。そして、原隊の隊長や両親、コミッショナーの助言を得ることができた。

結果としては、気ばらずにありのままの自分を表わして、個人的には親しく、全体としては、任務に忠実に動き、私を任命した派遣団の団長および隊長の期待にこたえるようにと思った。

## 派遣団内容について

### ①派遣団日程

12/21スカウト会館集合・準備訓練▽12/22結団式・壮行会・羽田出発▽12/23シドニー市内見学▽12/24ブルーマウンテン・バス観光旅行▽12/25シドニーからキャンベラの市内見学を経てメルボルンへ(スカウト家庭へ分宿—ホームステイ)▽12/29ジャンボリー、キャンプイン▽1/7キャンプアウト・ホテルで休息△1/8メルボルンからパースへ・市内観光とスカウト交歓会▽1/9パース市内観光・パースからシンガポールへ▽1/10シンガポール市内観光と交歓会△1/11シンガポールから東京へ・空港で解散式

### ②ホームステイ中の日程

12/25空港で対面式・すぐ家庭へ▽12/26各家庭の計画による▽12/27ホストファミリーとともに、ホスト隊のスカウトホールに集合・ホスト地区の紹介▽12/28ホストファミリーとピクニック▽12/29スカウトホールに集合してジャンボリー会場へ

### ③ジャンボリースケジュール

12/29午後から設営▽12/30午前中設営・オンサイトアクティビティー開始▽12/31ジャンボリージグソーゲーム・午後、レセプション・夜、開会式、大みそかコンサート▽1/1オフサイト

アクティビティー開始・夜、ロックコンサート  
▽1/2アクティビティー▽1/3カブディ・アクティ  
ビティー▽1/4アクティビティー・障害スカ  
ウトの夕食に招待される・夜、インターナショ  
ナルショーに参加▽1/5ガイドティ・アクティ  
ビティー・障害スカウトを夕食に招待▽1/6ア  
クティビティー・撤営・夜、閉会式▽1/7キャ  
ンプアウト・市内ホテルへ

#### ④役務

(1)通常の役務 各班には、隊長から申し出され  
た係をそのまま班長会議で受け入れ、「備品・記  
録・庶務・会計・プログラム」を置いた。

1度だけ、12月24日にパーティー委員会を組織  
した。それは、班長会議でクリスマスパーティー  
をしようという希望が出たからである。派手なも  
のではなかったが、企画、実行、反省ともきちん  
とはしていた。

(2)ジャンボリー期間中の役務 この間は、特別  
に係を一時解散させて、前々から隊長に話してい  
た委員会制度を設けた。なぜならば、ジャンボリー  
の気分にならず、隊の運営がうまくいかな  
いのではと思ひ、もっと責任を負わせたらと思っ  
たからである。

班長会議で、具体的に決めて行くときに、自分  
では、せいぜい3つか4つにしようと思っていた  
のだが、実際には次の6委員会になった。

渉外委員会▽食料委員会▽備品委員会▽建設委  
員会▽野営管理委員会▽記録掲示委員会

最初、3つか4つにと思っていたのは、全国か  
ら集まったスカウトは、まだ委員会制度をはっき  
りと理解できていないようだったので、あまり数  
が多いと収拾がつかなくなるのではないかと思っ  
たからである。

ところが、まだボーイ隊の係のようなものが受  
け入れやすいのか、委員会とは名ばかりのものに  
なってしまった。しかし、その運営においては、  
確実なものだったと思う。

#### ⑤運営

団長、隊長、副長の4名は、派遣団役員ばかり  
のサイトへ連れて行かれて、そこで生活していた  
ので、キャンプ運営はそのすべてが、私たちの班

長会議にまかされていたといってもよい。

といっても、キャンプの保持、発展とキャンプ  
サイト内での特別行事の企画(招待)などだけで  
もちろん、朝会、チケットの配布、班長会議、点  
呼には、リーダーにサイトにいてもらった。あとの  
時間は、ほとんど公用で、毎日リーダーはかけ  
回って、サイトにはいなかったわけである。

それで、寝るときだけは、隊長がサイトで寝て  
毎日スカウトに書かせていた1日のできごとを、  
隊長と私が読んで、それについて毎晩1時か2時  
ごろまで話し合い、隊をは握することに努めなけ  
ればならなかった。

#### 発見したことがら

私は、あらためて歌の効果を知った。私は日本  
でひとつの歌を覚えていった。それはオーストラ  
リア民謡「調子をそろえてクリック・クリック・  
クリック」であって、歌うことから、隊の統合を  
ねらったのである。

ところが、隊長も同じことを考えておられて、  
「バナナ」を用意していた。ここに、私たち派遣  
団は、合唱隊を編成して、この2曲を歌いまくっ  
た。その歌声たるや、みごとなもの、すばらしい  
ハーモニーには、どこで歌っても拍手を受けた。

初めのうちは、歌うことよりも寝ることのほう  
を好むスカウトもいたのだが、私のねらいは、み  
ごと的に的中して、そのうちに隊はみごとにひと  
つにまとまっていた。

#### 評価・反省について

全員がジャンボリーのアワードを取ることがで  
き、明るさが常に見られるすばらしい隊であった。  
何かあっても、私のところに個人的に相談して  
きてくれるスカウトばかりで、うれしかった。

これは、決して私ばかりでなく、オーストラリ  
アのスカウト、派遣団の団長、隊長それに、何よ  
りも各県連から派遣されてきたスカウトたちの協  
力があってこそのものである。

事故ひとつなく、羽田へ着いて、団長が日連に  
帰国報告をしている間、私はしみじみとやりがい  
のあったものだと感じた。(座間第1団シニア隊)